

土佐希望の家通信

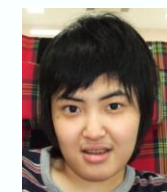
<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
<http://www.tosakibou.jp> Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

第34回 希望の家祭 ~新しい時代へ 愛と希望と笑顔の三銃士(34)~



10月14日(日)、第34回希望の家祭が開催されました。
 午前の部は若草養護学校土佐希望の家分校オンステージ、土佐の国笑いと癒しの事業団。午後の部は太鼓クラブ演奏、3病棟ダンス「ひょっこりひょうたん島」、高知県沖縄三線愛好会、ペリーダンスと盛りだくさんのステージでした。
 フリーマーケットや喫茶コーナーも大盛況でした。ボランティアの皆さんもどうもありがとうございました!

HAPPY LIFE 家族の窓 No.21 幸崎若菜様 1病棟



希望の家に生かして頂いて

幸崎若菜(母) わけ子

若菜を入所させて頂いて、十五年となる花火大会。療育さんが甲斐甲斐しく準備を下さっている合間、病棟は違うけれど、お母さんが「このお母さんやったら、シャボン玉好きやろーねー(笑)」と思ったのか、「シャボン玉吹いちゃって」と優しく手渡してくださった。親子共々夢のあるシャボン玉が大好き。みんなの幸せを祈り、虹色のシャボン玉がいっぱい、いっぱい空を舞う。お母さん、みんなに喜んでもらいたくて持って来て下さったのでしょうか。皆が楽しい笑顔になりました。



娘の足をマッサージしている。「いいっつも娘さんの足を揉みゆーね。頑張っつね。」と声を掛けて下さったお母さん。勇気づけられました。
 「お母さん、肩が痛いがやとね。」と優しく、自分の塗り薬をそっと手渡してくれた職員さん。随分良くなりました。
 1病棟の扉を開けると「幸崎さんがいっっぱいウソコしたー早よう来て。」集まった3人の職員さんたちは便器を見て大騒ぎ。ウンチにこれ程喜んでくれるなんて普通はないよねー。本当に本当にありがとございます。
 皆に声を掛けてくれたり、民謡を唄ってくれたりと全員を見守ってくれる、ひとみさん。今度一緒に外出しようね。
 ちえさん、窓の前に毎日毎日座って外を覗いゆーね。希望の家祭の日、お母さんと手を繋ぎ柔らかな笑顔でした。私も幸せな気持ちで帰って来ても嬉しくなりました。
 希望の家のゆったりとした空気は、皆様の大変な努力と優しさに包まれているから、そして皆頑張っている尊厳命のお陰です。皆さまに心からのありがとうと希望のある日々でありますように祈っています。

保護者会館利用できます



土佐希望の家の奥(西側)には「保護者会館」という宿泊施設があります。保護者の方の面会などにご利用できますので、利用希望の方は事務所にお問い合わせください。(要予約・宿泊料とシーツ代が必要になります)

中はこんな感じの普通の住宅です

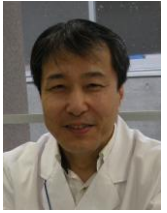
「」厚意

【寄付金・寄付物品】

- 北村忠司様 小林豊様 安藝宮子様 田村光昭様 前田教恵様 植松喜代子様 中沢給食様 小松正孝様 大前田商店様 高知ライオンズクラブ様 澤本憲夫様

ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします

再び希望の家に勤務して



副施設長
筒井章夫

今年の4月から約10年ぶりに戻ってきました。いずみの病院からの派遣で、週2日(火・木)の勤務です。二つの施設も一つに統合され、歳月の流れを感じます。通園部門を含め廊下で一つにつながり、以前自動車で移動していたことを思うと、ありがたいな・と思う毎日です。傘をささずに移動できるのも助かります。

ご存知の方も多いと思いますが、私は医科大学卒業後、幡多地区や仁淀川上流域のへき地診療所を中心に仕事をしました。沖の島で働いているときに長女が生まれ、脳性麻痺(四肢麻痺)であったため、必要に迫られ小児科(障害児医療など)の研修を受けました。

縁あって第二希望の家で働き、以後いずみの病院や関連クリニックで、脳卒中や骨折後のリハビリなどを担当する回復期リハビリテーション病棟、地域医療を担当していました。今も同院内科(回復期の支援を含め)や関連のへき地診療所に通っています。

また、以前養護学校に通っていた方も卒業、通園や施設で見かけ、成長の早さに驚いています。新たに入所あるいは通所している子どもさんたちを見ると、ついでに我が子の幼い頃を思い出してしまいます。一方では、加齢や合併症のため苦労している姿も見かけ、何とか苦しい思いをせずに生活できないかなあ、という思うことも多々あります。障害児(者)医療の大先輩に指導を受けながら、「少しでも利用者の方々の役にたてれば」と考えています。



私の仕事 (18)



2病棟療育指導補佐 信清美智子

縁あって希望の家で療育員をさせていただいて三十八年になりました。療育という奥深く、幅広く大きな仕事をさせていただいたおかげで、私自身も人間として成長できたと思います。単なる介護ではない「療育」を担う療育員の存在が希望の家を開設された山崎ご夫妻の御利用者が主人公だという思いを込めた職種だと思っています。

出来ていないことは目に目が行ってしまふ辛い時期もありましたが、振り返ってみるとご利用者の生活を少しでも豊かにできるように頑張っていた点も随分あったかなと思えるようになりました。日々の小さな気配り、大きな行事の踏ん張りは、職員皆が作り上げたものでした。御利用者全員が参加した種崎への親子ピクニックなど、今では想像できないのではないのでしょうか？

御利用者や家族の方に、「希望の家で良かった」と思っていたのが私の現在の目標です。制度や社会情勢も大きく変化していますが、御利用者にも職員にも〇印が付き、「希望の家に入所しています」、「希望の家で働いています」と誇りを持って言える希望の家であり続けることを願っております。



通園秋の遠足

十月三十一日、通園では秋の遠足で五台山の牧野植物園に行きました。まずは参加者の自己紹介。保護者は我が子の、職員は自分の「素敵なところ」をひとこと添えての自己紹介で、なごやかな雰囲気になりました。

風食はお母さんの手作りお弁当をおいしそうに食べる方、レストランでの食事を楽しむ方にわかれましたが、皆さんいい表情で食べていました。

風食後、季節の花々を楽しみながら芝生広場まで移動し、集合写真を撮りました。写真撮影のあとは、お待ちかねの宝探しゲーム。芝生広場に隠されたクリと力キの絵札を真剣な表情で探しました。全員がゲットしたところで景品交換。いろいろな景品をゲットし、喜びの声があがっていました。

ゲームの後はそれぞれが園内の散策を楽しみました。坂道が多く、保護者の方からは「良い運動になった」との声も。天候にも恵まれて穏やかな秋の一日を過ごすことができました。

通園部療育員 安岡 慶



テントを寄贈いただきました

土佐希望の家保護者会様、土佐希望の家後援会様よりテントを寄贈いただきました。今回の希望の家祭にも早速使用させていただきました。ありがとうございます！



1病棟療育員 中屋聖子

先日、ある職員から「昔、ぶっちゃんという利用者の方がおったろう？その弟さんが介護タクシーの運転手さんをして、ここに来ようがよ。弟さんが、あんなや何人かの職員の名前を覚えちゃって言いよったがよ。」とのことでした。ぶっちゃん(すいません、あえてそう呼ばせて下さい)は、私が希望の家で働き始めて、初めて亡くなられた利用者の方でした。あの頃は午前も午後も一年中散歩に出掛ける事が多かったのですが、あれから二十数年、時代と共に私達の仕事も色々と様変わりしてきましたが、昔も今も変わらないのは、利用者の皆さんが健康で快適な、そして楽しく充実した生活を送って頂く為に、日々取り組んでいる事です。

利用者の皆さんのお世話から、取り組み、行事等と忙しい毎日ですが、私達療育は、利用者の皆さんの一番近くに居る存在。今日もみんな頑張っています。

